

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100859		
法人名	社会福祉法人 星峰会		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	熊本県熊本市東区新南部3丁目7番76号		
自己評価作成日	平成26年10月4日	評価結果市町村受理日	平成27年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成26年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建ての民家、ホームでの食事作りというグループホームの特徴から反したビルの中の2階3階の居室、1階給食センターからの食事提供というきららでは、この条件を利点として考える取り組みを行っている。食事作りに費やす時間を入居者様の活性化に活かしたいという思いで午前・午後の体操やレクレーションに力を入れている。職員と共にレクレーションをし、一緒に散歩をし、一緒に世間話をし、たまに、一緒におやつを作る、そういう時間を大切にしている。また、ご家族に支えられ家族会も多くの方の参加を得られており、交流を深めることでご家族の思いに寄り添い、入居者様・ご家族様双方が幸せで元気でいられるよう支援していくことに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・利用者の生活状況を伝える「きらら新聞」を毎月発行、家族とのコミュニケーションを密に図ることに努め、些細な変化も連絡するなど、日々の細やかな働きかけによって家族との協力関係が築かれている。行事日に家族会を開催するアイデアで、多くの家族の参加が得られている。限られた人員配置では困難なことも、家族と協力して支援し、利用者の満足を満たすサービス提供に繋げている。
 ・調理を給食センターに任せることで、利用者との接する時間にゆとりが生まれ、毎日の散歩やレクレーション等を活発に行うことが可能となっている。利用者の心身の活性化を図りたいという目標の下、ケアに努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(2F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念をスタッフルームに掲示し、職員間で共有し実践するように努めている。	「地域との協力」「その人らしい暮らしの支援」等、地域密着型サービスの意義を踏まえた理念が明記されている。職員会議で、理念に沿ったケアが日々実践できているかを振り返る時間を持ち、職員への理解を促している。3階リビングには、書道が得意な利用者を書いてもらった理念が大きく掲示され、家族や訪問者への周知が図られている。	新職員が早く理念を理解し、実践に繋げていく為に、理念についての十分な説明を、採用時研修に組み入れることが望まれる。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の近隣を散歩したり、地域の文化祭に入居者様の貼り絵や色々な作品を出品している。	地域の文化祭に、利用者の絵や書等の作品を出品し、当日は利用者につき添って観賞に出向き、住民との交流に努めている。ホームの夏祭りでは、スーパーや併設保育園にポスターを掲示して、運営推進会議でも住民の参加を呼び掛けているが、住民の参加は少ない状況。併設保育園とは、毎月の誕生会に園児が訪れ、園の運動会の競技に利用者が参加したりと、園児・保護者との触れ合いが図られている。	自治会への加入を進め、日常的な交流が更に深められることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域代表の方に運営推進会議へ出席していただいている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にていただいた助言を職員間で話し合いサービス向上に活かしている。また、地域の活動参加への糸口となっている。	併設の小規模多機能事業所と合同で運営推進会議を開催。自治会長、民生委員、地域包括支援センター、老人会等の参加を得ている。会議では、帰宅願望の強い人への対応や、誤嚥予防の調理方法等、地域包括支援センターから助言を得たり、地域代表から緊急時の地域連絡網の活用を教えてもらうなど、有用な情報を得ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の相談員の方に来所して頂き入居者様の声を聞いていただくことで、よりよいサービスの実現に繋げることができている。	地域包括支援センターには、個々の利用者のケアで苦慮していることを相談し、助言を得ている。地域の徘徊模擬訓練に、管理者が実行委員として参加し、地域包括支援センターの活動に協力している。市の相談員と情報交換を行い、利用者一人ひとりの思いに沿ったケアの提供に活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間の転倒やベットからの転落リスクの高い入居者様に対しては鈴を付け対応したり、ベッド柵にタオルを巻き打撲防止に繋げたりしている。交通量の多い地域でのビルという施設での離設防止の対策として、家族に説明をし鍵で作動するエレベーターを設置しているという実情がある。	職員に「拘束排除の指針」を配布し、安全確保の為に必要と考えて行っていることが拘束になってはいないかなど、ケア内容を見直す機会を持ち、意識付けを図っている。事業所ビルの同じ階に特定施設の居室があり、往来が多く、安全を図る為にエレベーターは施錠式となっている。各ユニットの出入り口の開閉時は、細やかな声掛けが行われ、利用者の見守りを強めるなど、事故防止に配慮されていた。	利用者の特性を踏まえた声掛けなど、職員教育が継続して行われることを期待する。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修を開き、職員の意識を高め、虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度についての理解が浅い職員がまだまだ多い。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書や重要事項説明書により詳細に説明している。また、家族の思いや希望を聞きケアに反映させることを説明すると共に、施設生活での了承してほしい事も細かく説明し、納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、家族が意見・要望を発信できる場を設けている。また、家族や入居者様から要望があれば対応するよう努めている。	開設2年目に家族会を発足。8月の夏祭り・12月のクリスマス会と同日に開催し、多くの家族の参加を得ている。家族会では、DVDを活用してホームの活動状況を報告し、家族同士の座談会の時間を設けるなど、和やかな雰囲気の中で、家族からの自由な意見が引き出されるように配慮されていた。写真満載の「きらら新聞」を毎月発行し、利用者の様子を伝え、家族の訪問時にはコミュニケーションに努め、家族の要望を聴き取るようにしている。「職員は名札を付けて欲しい」「外泊時はホームで入浴を済ませておいて欲しい」等、家族からの様々な要望は検討し、改善に繋げている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、職員が自由に意見を発信できる機会を設けている。また、日頃から意見を言い易い雰囲気作りに努めている。	毎月、フロア会議と職員会議を開き、職員が自由に意見を述べ合う機会を持っている。利用者の状況によって、人員配置や業務の内容、流れ等の変更について活発に検討されている。職員の意見を運営に反映させたいという姿勢が管理者にあり、職員からも、上司に相談しやすいという声が聞かれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を遵守しながら労働時間を守り、諸事情で残業となった場合には残業手当として給与に反映している。また、資格取得などを給与に反映し職員のやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加については、経費の補助が確立されており、研修を受けやすい環境を配分しているが、人員不足の為十分な人数を研修に参加させることができていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や施設職員意見交換会などに参加して、そこで得た情報などを職員に伝達し、サービスの質の向上に繋げるよう努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当者を決め、入居者様と密な関係を築けるよう努めている。入居者様の性格や生活リズムに応じ個々に合ったサービスを提供できるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ケアプランやモニタリングを作成する度に家族へ困っていることがないかの確認、面会時に新たな要望がないかの確認を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	何に対して困っているのか、何かをしたいができない原因となっているものは何かを聞き出し、また、身体状況を観察して何が必要かを考え、本人や家族に提案する。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	洗濯物たたみや食器洗いを共に行うことで関係を築くよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に入居者様の状況を理解して頂き、また、入居者様との会話の中で職員が知らない昔話が出た際には家族より情報を得ている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者様が口に出された店や場所などに可能な限り外出するよう努めている。	利用者と家族との関係を深めることを重要視し、家族に利用者の暮らしぶりを伝え、訪問を促す取り組みが行われている。毎朝、仕事前に立ち寄る家族や、毎週訪れる家族など、訪問が多く見られている。利用者の思いを伝える中で、誕生日や墓参りに一緒に外出する家族も現れ、家族との協力関係が築かれている。ホームでも、八景水谷公園や自宅周辺へ出掛ける等、思い出の場所へのドライブに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の良い入居者様にはコミュニケーションの場を提供し、共に作業していただくことで良い関係を築いていただけるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所された方の家族の了承を得られた場合、電話連絡や面会を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り利用者様の言葉を汲み取ってニーズの把握をするよう努めている。困難なときは家族へ確認し、一番本人が望んでいるだろうと思われることをニーズとして考えるようにしている。	家族から聞き取った、これまでの生活の様子などを参考に、日々のケアの中で、利用者の表情や言動から思いを察知するように努めている。定期的に訪れる市相談員には、職員には見せない一面を見せる利用所もあり、市相談員の助言から利用者の思いを汲み取ることに心掛けている。随時、ケアカンファレンスを実施し、一人ひとりの思いに沿ったケアに繋がっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族へ確認しその方の生活歴を把握する努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1ヶ月に1回以上スタッフ会議を行い入居者様の現状について話し合っている。また、気づいたことなどはノートを使い連絡しあってスタッフ全員で現状把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1年に1回以上の担当者会議を行っている。また、問題がある場合にはその都度電話か面会時に家族へ報告、スタッフで考えた予防法や解決策を提案しケアプランに取り入れられている。	担当職員が3ヶ月毎にモニタリングを行い、利用者の変化の有無を確認し、ケアカンファレンスで検討している。ケアマネージャーは、日々のケース記録やモニタリング記録、職員の情報を基にアセスメントを行い、主治医や看護師の助言を取り入れながらケアプランを策定している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	いつもと違うことがあれば、すぐに記録に記入している。また、それを確認してモニタリングしケアプランの見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	口腔ケアが困難な方に対しては、訪問歯科の提案をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	夏祭り・誕生会には、保育園・地域の方に参加して頂き交流を図る。また、ボランティアにて編み物や書道の教室を開き生活に張りを持っていただく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	急な受診の際はご家族に連絡し希望された病院での受診を行っている。ご家族での対応が困難な場合には支援を行っている。	協力医が隣接しており、受診の移動負担が軽いことや、往診に気軽に応じてもらえること、夜間の連絡体制ができていないことなどから、ほとんどの利用者がかかりつけ医を協力医に希望している。受診に家族が付き添えない場合、別途料金が必要だが、看護師・職員で介助し、診察内容を家族に報告している。かかりつけ医とは日々情報交換を行い、連携を図っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	状態の変化が見られた場合には、併設事業所の看護師へ報告しかかりつけ医と連絡を取る体制を取っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し提供、また、利用者の情報ファイルを作成しており病院に持参するようにしている。また、入院時には2～3週間毎に電話や訪問を行い状況確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向を確認し、職員間で話し合い可能な限り対応するように努めている。	重度化したり、終末期を迎えた場合、本人の意向を汲み取り、家族や主治医と話し合いながら、できる限りホームで支援していく姿勢が伺えた。経管栄養や24時間点滴が必要な人への対応は困難であるが、訪問看護を活用し、点滴中の家族付き添いを依頼するなど、関係者と協力して支援した実績も確認された。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時マニュアルを作成し全職員が対応できるように努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災避難訓練を実施し、消火器・スプリンクラーなどの設備は整っているが、地震・水害についての対応は万全ではない。	本年度9月に消防署立会いの下、初めての火災避難訓練を実施。ホームがビルの2階、3階にあることから、避難方法や経路、避難場所の確保等が課題となるが、消防署の助言を受けながら訓練が実施された。夜間の火災では、特定施設と併せて32名の利用者を、3名の職員で避難させなければならず、地域住民の協力が不可欠であることを実感する機会となった。	運営推進会議等の機会に地域の協力を呼び掛け、また、近隣の学生アパート1軒1軒を回り、協力を依頼することが検討されている。避難訓練が定期に実施され、住民との協力体制が築かれることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行い職員間で言葉遣いを注意しあうよう努めている。居室に入室する際は本人に声をかけるようにしている。	毎年、接遇研修を行い、プライバシーの保護や、敬意を持って接すること等を指導している。研修を踏まえて、職員一人ひとりに自らのケアを振り返るレポートの提出を求め、全員で検討し、改善に繋げるなどの工夫が見られた。	言葉使いに課題を感じる職員もあり、更なる職員教育が必要と思われる。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が発信しやすいよう否定的な言葉は使わず、話を傾聴し希望を引き出せるよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはある程度決まっているが、本人の気分に合わせ時間や対応を変えるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケアの配慮、また、本人様の口紅を塗ってあげるなどの配慮、また、外出時には上着などを一緒に選んだり、身だしなみに特に気をつけている。また、訪問カットなどの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブル拭きや湯飲みの準備などを一緒に行い、昼食は職員も共にテーブルを囲んでいる。本人の好みを尊重し提供しよう努めている。	同ビル内にある給食センターで、特定施設と一括して調理が行われているが、利用者の要望を反映した献立作りや、利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下状態に合わせた調理、嗜好に応じて代替品を用意するなど、個別対応への配慮が見られた。通常は、利用者が調理に参加することはないが、2ヵ月に一度、おやつ作りの日を設けており、作る楽しみが感じられる工夫も見られた。	昼食は職員も一緒に摂るようにしているが、職員がテーブルに着くのが遅く、食後の片づけが早いこともあり、会話を楽しむまでには至っていないように思われた。ゆっくりと食事できるように、食事の準備・片付けの業務を見直し、改善されることを期待する。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事水分摂取表を作成し状況を把握している。食事摂取量の少ない方は栄養補助食品などを利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各々に応じた口腔ケアを毎食後行っている。義歯使用の方は訪問歯科を利用し口腔ケア・義歯洗浄などを行っている方もいる。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各々に合わせた時間にトイレ誘導を行いトイレでの排泄ができるように努めている。	できる限りおむつにならないようにと、排泄パターンを踏まえた声掛けや、布おむつに尿取りパットを組み合わせて、失敗を減らすよう努めている。夜間はリハビリパンツを着用したり、声掛けしてトイレへの介助を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作り状態を把握している。腹部マッサージなどを行いバナナで排便コントロールを行っている方もいるが、毎朝ラキソベロンを服用される方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日・時間は決まっておらず週3~4回入浴していただいている。各々に合わせて入浴時間・洗髪・洗身方法を変え対応している。	早朝に入浴すると終日機嫌良く過ごす人や、夕食後の入浴を希望する人もおり、利用者の要望に沿った入浴支援が行われている。入浴を嫌がる人には、仲の良い利用者に勧めてもらったり、時間を見計らっての声掛けを根気よく行うなど、本人の気持ちを損なわない対応を心掛けている。入浴拒否が強いが温泉には入るといふ人には、家族と相談し、毎週、温泉に連れ出してもらおうなどの対応が見られた。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も傾眠の強い場合や臥床したい訴えある場合には対応している。夜間不眠の多い入居者に対しては職員が話し相手となり安心していただく。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬が処方された場合には状態をチェックしているが、薬に関して知識の豊富な職員は少ない。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事の得意な入居者には、食器洗いをお願いしたり、各々の好きなことをレクに取り入れるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には散歩に行くよう心掛けているが、現状難しく入居者から外出できないストレスを感じることもある。	朝食後の散歩を日課として実施。梅雨時は散歩に出かけられない日が多いことから、車でショッピングモールに出かけ、買い物を楽しんでもらう等の支援が見られた。利用者の希望に沿って、季節毎の花見や弁当持参でドライブに出かけたり、近くのスーパーやコンビニへの買い物支援、郵便局に行く時は利用者を伴うなど、外出支援に努力していることが伺えた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は施設で管理している。買い物に行った際、見守りにてレジで支払いをしていただくこともあるが、本人の金銭管理は困難。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の訴えがあればすぐに対応しているが、殆ど訴えはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掲示物を工夫するよう心掛けている。室温は入居者の訴え・状態に応じて調整、トイレが汚れた時には、その都度掃除をし清潔を保つよう心掛けている。	リビングの窓から手が届く高さに桜の枝が伸び、桜花爛漫の春を満喫できる造りになっている。2カ所に大画面のテレビが設置され、ソファにゆったりと腰かけ、テレビ鑑賞する利用者の姿が見られた。屋上の菜園は、野菜作りや収穫を楽しむことができ、景色を眺めながら外気浴ができる場となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事以外は好きな場所で過ごしていただいているが、ソファを決まった入居者ばかりが利用し他者が利用できないこともある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は可能な限り家族や本人の希望に合わせているが、異食・収集癖のある方の居室は殺風景になっている。	居室のドアには、利用者の目線の高さに書や絵等、本人の作品が貼ってあり、自分の部屋という確認ができると共に、作品作りの意欲を高める効果にもなっている。入居時に馴染みの物の持ち込みを呼びかけ、重厚感のある家具や、テレビ、冷蔵庫が設置されている部屋も見られた。本人・家族の趣味に合った部屋作りが行われ、明るく温かみのある居場所になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人様より進んで取り組まれることはしていただいているが、特に「やりたい」ことの訴えがない方にはもう少し「できること」をいかした生活を送って頂けるよう工夫が必要である。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4390100859		
法人名	社会福祉法人 星峰会		
事業所名	グループホームきらら		
所在地	熊本県熊本市東区新南部3丁目7番76号		
自己評価作成日	平成26年10月4日	評価結果市町村受理日	平成27年1月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」		
所在地	熊本県熊本市中央区水前寺6丁目41—5		
訪問調査日	平成26年10月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建ての民家、ホームでの食事作りというグループホームの特徴から反したビルの中の2階3階の居室、1階給食センターからの食事提供というきららでは、この条件を利点として考える取り組みを行っている。食事作りに費やす時間を入居者様の活性化に活かしたいという思いで午前・午後の体操やレクリエーションに力を入れている。職員と共にレクリエーションをし、一緒に散歩をし、一緒に世間話をし、たまに、一緒におやつを作る、そういう時間を大切にしている。また、ご家族に支えられ家族会も多くの方の参加を得られており、交流を深めることでご家族の思いに寄り添い、入居者様・ご家族様双方が幸せで元気でいられるよう支援していくことに力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(3F)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を共有し日々心掛けて実践していく努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	夏祭りなど行事参加の案内を出し、呼びかけ参加して頂いている。また、地域の文化祭にも参加させて頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	西原校区ネットワークに所属し活動に参加し、地域の人々に向けて活かしている。また、運営推進会議にて情報を発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にていただいた助言を職員間で話し合いサービス向上に活かしている。また、地域の活動参加への糸口となっている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	毎月の市の相談員の訪問にて第三者の立場から入居者様の意見を聞いていただくことにより改善点を見出している。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修を行い全職員が正しく理解できるようにしているが、離設による事故などの防止などを考慮し鍵(エレベーター・階段)をかけている事に関して身体拘束をしないケアと安全の狭間で苦慮している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外の研修に参加し、全職員が虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内外の研修に参加し、理解を深めていくよう努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に、契約書や重要事項説明書により詳細に説明している。また、家族の思いや希望を聞きケアに反映させることを説明すると共に、施設生活での了承してほしい事も細かく説明し、納得していただくよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を開催し、外部者へ表せる機会を設けている。面会時などにおける家族などの意見や要望があった際には全職員で共有し改善に向けての話し合いを行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、職員が自由に意見を発信できる機会を設けている。また、日頃から意見を言い易い雰囲気作りに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	労働基準法を遵守しながら労働時間を守り、諸事情で残業となった場合には残業手当として給与に反映している。また、資格取得などを給与に反映し職員のやりがいに繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加については、経費の補助が確立されており、研修を受けやすい環境を配分しているが、人員不足の為十分な人数を研修に参加させることができていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会や施設職員意見交換会などに参加して、そこで得た情報などを職員に伝達し、サービスの質の向上に繋げるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメント・モニタリング・カンファレンスを行い、本人の安心を確保する為の関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学時や入居申し込み時に困っていること、不安なこと、要望などを傾聴しアドバイスをしたり受容することで信頼関係を深める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	アセスメント・モニタリング・カンファレンスを通して本人様とご家族が何を必要としているのか見極め、その時に必要な支援を行うように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念を念頭に置き「共に生活をしている」という思いを忘れないように努めているが、重度化に伴い介護される一方の立場に置いた対応にならざるえない状態の時もある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月「きらら新聞」を発行し様子を伝えたり、面会時や電話にて本人様の様子や思いなどを報告し一緒に支援していくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が語る馴染みの人や場所への思いを家族に報告し、関係が途切れないよう支援に努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係を把握し、トラブルになりそうな時は職員が中に入り対応する。一人一人の居心地のよい場所を確保し、孤立する事がないように時には職員が仲介となるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院による退所時は面会に行くことにより本人・ご家族の経過をフォローしていくが、時間が経つにつれ面会にも行かなくなっているのが現状である。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いや意向に答えられるよう職員間で話し合いを持ち、時には家族の協力も得、実現できるように努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の状況は全職員、フェースシート及び本人との会話の中で把握するように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態をケース記録に細かく記録する事により1日の過ごし方、心身状態を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を日常的に把握し必要に応じて本人・家族・関係者と話し合いの場を持ち現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別介護記録に日々の様子を詳細に記録し気づきや対応など職員間で情報を共有し活かしている。連絡ノートの活用、フロアミーティングにて職員間の情報の共有に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々生まれるニーズに対応して「できない」ではなく「できるように」柔軟な支援を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	一人一人が地域資源を活用できるよう把握し、安全で豊かな暮らしを楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診はかかりつけ医、協力医、近隣の病院など、本人様・ご家族が納得して受診できるように支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の観察の中で気づいたことは直ぐに看護師に報告し指示を仰ぐ。看護師の判断のもと、適切な医療看護が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者・ケアマネが医療機関や家族と密に連絡を取り連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所申込時に事業所でできること、できないことの説明を行い了承を得ているが、重度化した場合には本人様・ご家族様と話し合いを持ち対応を考えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルはあるが、今後全職員が直ぐに対応できるように研修を徹底していく必要がある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間対応火災訓練など実施しているが、地震時などを想定した訓練が出来ていない状況の為、地域との協働体制も含め、今後の課題である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「接遇」を忘れず一人一人にあった言葉かけで対応するよう心がけ尊敬の念を持って接するようになる。トイレ時、入浴時はプライバシーを損なわない対応、声掛けをする。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員に気を遣うことなく本人の思いや希望を表せるような関係作りを心がけ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に、希望に添うように支援するようにしているが、一日中臥床したり、居室に閉じこもってしまうような場合は職員の都合を優先する事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	離床時、外出時の身だしなみの確認や汚れ、破れなどがないように注意している。訪問カットなどの支援も行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみになるように本人の嫌いなもの、食べられないものは、厨房と相談の上、代替品にて提供している。また、季節感が感じられるものを提供するように工夫している。また、職員と共に食事を採ることにより会話が広がり楽しく食事ができている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食べる量、栄養バランス、水分量が把握できるように記録をとり対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々にあった口腔ケアの支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄の自立に向け、昼間は布パンツにて対応し、排泄パターンを把握し、声掛け時には誘導を行う。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩など運動への働きかけをしたり、家族の協力のもとヨーグルトなどを摂取してもらうようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の曜日や時間帯などは決めず本人の希望に添うようにしているが、入浴拒否が強い方は家族の協力を得、外出時に温泉などを利用して入浴されたりする。また、入浴拒否が強く何日も入浴できない場合は健康面も考慮に入れ職員の判断で本人の意に反しても入浴を実施することもある。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望により昼夜逆転にならないよう配慮しながら休息していただいている。また、布団干し、シーツ交換などを行い気持ちよく眠れる環境を提供できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は看護師が行っている。全職員が全ての薬の目的や副作用を理解していないので今後、理解を深めていく必要がある。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の役割や嗜好を把握し、毎日が同じことの繰り返しにならないよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の希望に添って外出することは出来ないが、天気のいい日には散歩に行ったり、買い物などに行ったりしている。また、季節を感じられるような場所にドライブに行く機会も設けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	グループホームは認知症の方が入所されているので色々な症状があり、お金を持つことにより周辺症状を悪化させる可能性がある為、お金の管理はご家族の了解のもとホームで行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙・電話の使用は基本的に自由にできるように支援している。ご家族以外の電話は家族に了解を得た上でかけていただくようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音・光・室温などの要望を取り入れるよう配慮している。壁絵や花を飾ることにより季節感を感じていただくよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	畳・ソファーなど自由に利用できるようになっており、また、テーブル席は食事以外は自由に座れるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の物はベッド以外は全て個人で持ち込んだものである為、好みの物を利用している。家具の配置・ベッドの配置もご本人様・ご家族と相談し配置している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	余計なものは置かない(障害物の排除)車イスでも自由に方向転換できるスペースの確保、トイレや入浴時、自立できる手すりの設置、廊下の手すり設置など、出来る限り安全で自立した生活が送れるように工夫している。また、改善が必要な時には話し合いを持ち対応している。		